

2018年度（2019年3月卒業生） 新卒視能訓練士就業調査状況調査 調査結果

調査目的：今後ますます増加する視能訓練士の就業状況を把握する。

対 象：2018年4月現在日本国内に存在し2019年3月に卒業生を輩出した視能訓練士養成施設31校（大学9校・短期大学1校・専門学校21校）に対しアンケート調査を依頼。対象者数は国家試験合格者の804名。

施設区分	養成校区分 就職先区分	性別	大学 9校			短期大学 1校			専門学校 19校			合計 29校				前年28校との比較		区分比率	前年度比
			女性	男性	合計	女性	男性	合計	女性	男性	合計	女性	男性	人数	比率%	増減数	比率%		
国公立系医療機関	1. 国立高度専門医療センター（ナショナルセンター）		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	▲1	▲0.1%	10.3%	1.8%		
	2. 国立大学法人		14	4	18	0	0	0	10	1	11	24	5	29	4.2%			0	0.5%
	3. 独立行政法人国立病院機構		1	0	1	0	0	0	1	0	1	2	0	2	0.3%			▲7	▲0.6%
	4. 公立医療機関（都道府県市町村の病院及び診療所）		9	1	10	0	0	0	6	1	7	15	2	17	2.4%			1	0.4%
	5. その他国立系の病院		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%			▲1	▲0.1%
	6. 公立大学病院		2	2	4	0	0	0	2	1	3	4	3	7	1.0%			0	0.1%
	7. 公立に準ずる病院及び診療所		9	1	10	0	0	0	6	1	7	15	2	17	2.4%			13	1.9%
	①小計		35	8	43	0	0	0	25	4	29	60	12	72				5	
全体に占める割合		5.5%			0.0%			3.7%			7.7%	1.5%		10.3%		1.8%			
私立系医療機関	8. 私立大学病院		34	6	40	1	0	1	6	2	8	41	8	49	7.0%	10	2.0%	85.2%	▲1.4%
	9. 私立病院（他科もある病院の眼科）		24	6	30	6	0	6	26	10	36	56	16	72	10.3%	▲10	▲0.2%		
	10. 私立眼科病院		21	4	25	1	0	1	30	6	36	52	10	62	8.9%	▲5	0.4%		
	11. 眼科診療所（医療法人及び個人）		150	17	167	13	4	17	203	24	227	366	45	411	58.9%	▲78	▲3.5%		
	12. レーシックセンター（レーシックを主にしている眼科診療所）		0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0.1%	▲1	▲0.2%		
	②小計		229	33	262	21	4	25	266	42	308	516	79	595		▲84			
全体に占める割合		37.5%			3.6%			44.1%			73.9%	11.3%		85.2%		▲1.4%			
その他の	13. 視能訓練士の学校または養成所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	▲9	▲1.1%	4.4%	▲0.4%	
	14. 大学院		1	5	6	0	0	0	0	0	0	1	5	6	0.9%	6			0.9%
	15. 福祉関係		1	0	1	0	0	0	1	0	1	2	0	2	0.3%	1			0.2%
	16. 病院・医院以外の医療関係企業		1	2	3	0	0	0	0	1	1	1	3	4	0.6%	▲3			▲0.3%
	17. 医療関係以外の職業		2	2	4	0	0	0	1	1	2	3	3	6	0.9%	1			0.3%
	18. 就職せず		2	1	3	0	0	0	7	3	10	9	4	13	1.9%	▲3			▲0.1%
	19. 他大学		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0			0.0%
	20. 他専門学校		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0			0.0%
	③小計		7	10	17	0	0	0	9	5	14	16	15	31		▲7			
	全体に占める割合		2.4%			0.0%			2.0%			2.3%	2.1%		4.4%				▲0.4%
合計（①+②+③）		271	51	322	21	4	25	300	51	351	592	106	698	100.0%	▲86				

小数点第2位四捨五入
2019年10月現在
視能訓練士需給計画委員会実施

アンケート調査に対して回答があった養成校数は、大学は前年より1校増え9校、短期大学は前年と同じ1校、専門学校数は昨年と同じ19校、合計では1校増の29校（アンケート回収率93.5%）から回答を得ました。

回答が得られた養成校の全学生数は、女性は前年より90名減の592名（84.8%）、男性は昨年度より4名増の106名（15.2%）の計698名でした。前年に比べ学校数は1校増加したにもかかわらず人数では86名減少となりました。

大学は1校増で人数は34名増加でした。専門学校は前年に比べ121名の減少となりました。専門学校での学生数の減少が示唆されました。

今回の調査結果について

1. 施設区分

施設区分では、年々減少していましたが「国公立系医療機関」の全体に占める割合は前年比1.9ポイント増の10.3%で増加に転じました。反対に「私立系医療機関」の全体に占める割合は前年比1.4ポイント減の85.2%、「その他」の全体に占める割合も前年比0.4ポイント減の4.4%となりました。今回の結果では、「国公立系医療機関」が上昇し、その代わりに「私立系医療機関」、「その他」が減少となりました。

2. 就職先区分

施設区分では、「国公立系医療機関」の「公立に準ずる病院及び診療所」が前年比1.9%増、「私立系医療機関」では「私立大学病院」が前年比2.0%増と大幅に増えていました。それらの影響により「眼科診療所」は前年比3.5%減と大幅に減少していました。「その他」では、「大学院」に進学した人が6名と多くなりました。「就職せず」は前年より減少しており、視能訓練士として活躍する人が多い結果となりました。

3. まとめ

今回の調査結果からは、この春卒業した学生の進路については、「公立に準ずる病院及び診療所」と「私立大学病院」からの求人が例年より多くあったことが考えられ一時的なものと思われ、今後も眼科診療所への就職が最も多い状態は続いていくと思われます。問題とすべきは、厚生労働省が毎年公表している国家試験合格者数に増減はありますが、今回のアンケート調査に回答した養成校は1校増えたにも関わらず、卒業生の数は減少し、特に専門学校の女性が大幅に減少していました。このことは学齢人口の減少が特に専門学校で影響していることが考えられます。次回の国家試験は、受験する養成校が2校減少しますので、さらに減少するものと考えられます。

良い視能訓練士を輩出するためにはこの素晴らしい資格を社会全体によく知っていただくことが重要です。入学者数の減少は需給の悪化につながりますので、会員の皆様には高校生だけでなく幅広い層に視能訓練士をアピールしていただけたらと思います。

今年卒業し、有資格者となられた皆さん国家試験合格おめでとうございます。需給委員会では今後も調査を続け、更なる視能訓練士の需要拡大を目指していきます。今後とも、皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

視能訓練士需給計画委員会